

《原 著》

IMP 標準入力関数の作成と臨床検討

志賀 哲* 梶 智人* 甲野 智也* 影山 広行*
加藤千恵次** 畑澤 順*** 奥 直彦*** 榎林 勇****
太田 仁八***** 小森 剛***** 林 万寿夫***** 玉木 長良*

要旨 IMP-ARG 法で用いられる標準入力関数の構成要素の一つである動脈血オクタノール抽出率に市販の IMP 2 医薬品間で有意差があるとの報告がある。そこで、後発品 (以下, IMP_B) 用標準入力関数を作成し、先発品 (以下, IMP_A) の標準入力関数使用による脳血流量値と比較した。 IMP_B 投与後の動脈血オクタノール抽出率は 5~16 分まで 0.77~0.78 と安定しており、 IMP_A のそれより高値であった。 IMP_B と IMP_A から作成した標準入力関数との組み合わせでは、従来法 (IMP_A と IMP_A から作成した標準入力関数の組み合わせ) より脳血流量に有意差はないが高い傾向にあった。 IMP_B と IMP_A から作成した標準入力関数との組み合わせでは、 IMP_B と IMP_B から作成した標準入力関数の組み合わせより脳血流量が有意に高値であった。 IMP_B と IMP_B から作成した新標準入力関数の組み合わせは従来法 (IMP_A と IMP_A から作成した標準入力関数の組み合わせ) とほぼ同等の脳血流量が得られ、 IMP_B 用新標準入力関数を用いることにより、より適切に定量できることが示された。

(核医学 44: 1-7, 2007)